

図3 学区内生徒の高校（普通課程）入学状況

(51年3月卒業生)



(52年3月卒業生)

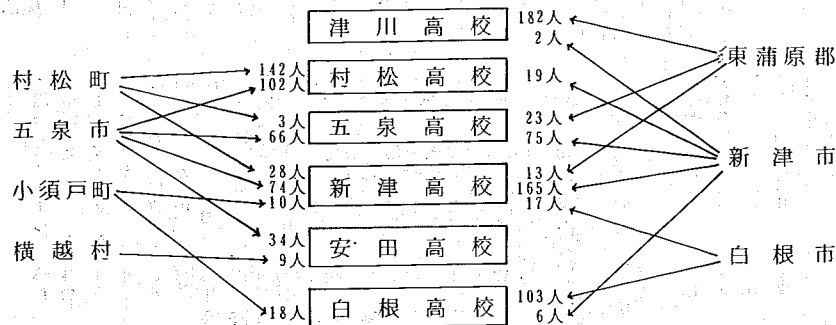
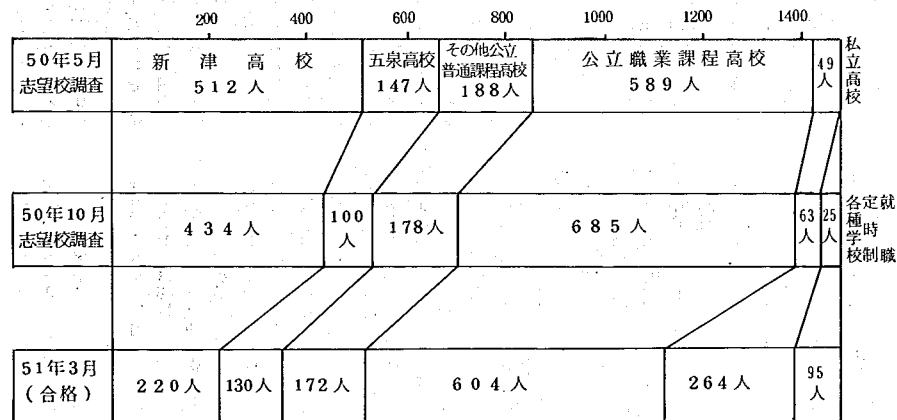


図4 志望校の変遷

(51年3月卒業生)



51年及び52年3月中学卒業生の進学状況と志望校の変遷

図1 新津・五泉市高校進学率（含定時制） (51年3月卒業生) (52年3月卒業生)

◎新津市		
・50年度中学卒業生総数	910名	903名
・同上のうち高校進学者数	864名	871名
・進学率	94.9%	96.6%

◎五泉市		
・50年度中学卒業生総数	648名	589名
・同上のうち高校進学者数	550名	522名
・進学率	84.9%	88.6%

図2 新津・五泉市進学率 90.8% 93.4%

高校進学者数に対する普通高校（公立・全日制）進学率

◎新津市		
・高校進学者のうち普通高校（公立・全日制）進学者数	245名	269名
・普通高校進学率	28.4%	30.9%

◎五泉市		
・高校進学者のうち普通高校（公立・全日制）進学者数	252名	276名
・普通高校進学率	45.8%	52.9%

◎新津・五泉市普通高校進学率 35.1% 39.1%

新津・五泉学区内の進学状況と志望校の変遷

県内公立普通高校の現行通学区域、10学区のなかで、もっともきびしい進学難学区は新潟、次いで新津・五泉学区となっています。

去年、今年と、五泉高校に普通科学級増が行われたため、両市とも進学率は若干、あがりましたが、まだまだ焼石に水で、多くの生徒がやむなく志望がえししなければならないのが実情です。

資料4の数字で明かなように、51年3月には7学級に相当する生徒325名が、また、52年3月には5～6学級相当数の208名が最終的に普通科志望から外れた結果を示しています。

この数字は両市だけのもので、学区内他町村の生徒を加えれば、適正規模校1校がどうしても必要であり、その実現が待つ待たれるわけです。

資料1は両市中学卒業生全数の進学率、図2は公立普通高校の進学率で、他学区にくらべ低い実態を示しています。

図3は学区内市町村生徒の入学状況です。

(52年3月卒業生)

